

早川 公二 議員



## 早期対応が必要な不登校に どんな対策を取っているのか

問

市の不登校の現況について聞くと。

- (1) 市の状況は。
- (2) 長期化すれば、家庭から出られなくなり、他人との関わりが持てなくなるということが問題である。早期対応が必要ではないか。どんな対策を取っているのか。
- (3) 相談所の周知はどう行っているのか。

## 予兆段階で早期 対応に臨む

答 学校教育課長

- (1) 23年度末で、小学生11人（全体に占める割合0・43％）、中学生45人（同3・34％）である。
- (2) 予兆が見られた段階から電話、家庭訪問など早期

対応に臨み、児童相談所と連携し学校、家庭が一体となり対応していく。

- いじめ・不登校電話相談等を行っており、各学校に配置するスクールカウンセラーにも相談してもらえればと思っている。
- (3) ホームページやパンフレット等を配置しているが十分周知に至っていないところもある。

21年度から鍋田支所2階に、学校生活適応指導支援室「アクティブ」を設置し、不登校に対応している。23年度、小学生2人と中学生2人は、原籍の学校に戻ることができた。

## 市で児童虐待は あるのか

問

児童虐待について聞くと。  
(1) 市は虐待を受けている児童はいるか。

(2) 早目に対応すれば、虐待の深刻化も防げ、心と体の傷が浅いうちに保護することが可能ではないか。どんな対策を取っているのか。

- (3) 子育て家庭を支える取り組みが必要ではないか。
- (4) 相談は夜や週末も可能にする等、改善できないか。
- (5) 了承を得て、相談して解決した人の意見を周知することも大事ではないか。

## 23年度、24件あった

答 児童課長

- (1) 23年度の対応件数は24件で、内訳は身体的虐待が9件、保護の怠慢等13件、心理的虐待2件だった。
- (2) 要保護児童対策地域協議会で毎月1回、情報交換、支援内容を協議している。児童相談センター、家庭

相談員等が訪問や面談、保育所等で状況確認している。  
(3) 役所に家庭児童相談室を設置し、相談員2人で対応している。

子育て支援センターを3カ所設置し、23年度は739件の相談を受け付けている。また24年度から、臨床心理士による巡回個別相談を行っている。

(4) 施設の開所日、職員体制もあり、今後の課題とさせてほしい。

(5) 子育て支援センターなどをPRする際に、相談を受けた人の声を掲載したい。



弥生子育て支援センター